

この紙のゴール：義務・助言・推量を場面で選び分け、must の否定が2つに割れることが分かる

基礎を固めるクラス 偏差値のめやす 40～50程度 助言の should と、弱い推量 may / might・打ち消しの can't まで（過去は had to だけ）

気づき AとB、どちらも同じ must。でも日本語にすると別物になる。何が決めている？（30秒考えて、となりの人と答え合わせ）

A	You must wear a helmet on this course.	このコースではヘルメットをかぶらないといけない。
B	You must be tired after that long game.	あんな長い試合のあとだ、疲れているにちがいない。

must は「そうでない可能性はない」と言い切る語です。Aは「そうしない選択肢はない」（義務）、Bは「そうでないはずがない」（推量）。決め手はうしろの内容—自分では変えられないこと（tired・hungry・like）なら推量、これからそうしなさいと言えること（wear・be quiet）なら義務。どちらにも読める文もあります。

整理 助動詞の4つの型

形	作り方	表すこと	例文
義務・必要	must / have to + 原形	～しなければならない	You have to change trains. 乗りがえなといけない。
推量（強い）	must + 原形	～にちがいない	They must be twins. あの二人は双子にちがいない。
助言	should + 原形	～したほうがいい	You should ask your teacher. 先生に聞いたほうがいい。
推量（弱い・打ち消し）	may / might + 原形 can't + 原形	～かもしれない ～のはずがない	She may be on the next bus. That can't be right. 次のバスかもしれない。／そんなはずはない。

これで「義務・助言・強い推量・弱い推量」がそろいました。この帯の主演はmust の否定が意味で2つに割れることです—mustn't は「してはいけない」、「～のはずがない」は can't。もうひとつ、don't have to は「しなくてよい」で must not とは正反対です。ここを取りちがえると、意味がひっくり返った英文になります。推量の強さは must > may / might の順—自信がないときに must を使わないだけで、伝わり方がぐっと正確になります。

確認 () 内から正しいほうを選ぼう。 知識・技能

- (1) He hasn't eaten since morning. He (can / must) be hungry.
- (2) Your bag looks so heavy. It (may not / must) be full of books.
- (3) You look pale. You (may / should) see a doctor today.
- (4) I'm not sure, but Ken (may / must) be in the gym.

助動詞の見取り図 | 解答とつまずきポイント

確認の解答

(1)	must	朝から何も食べていない＝根拠がある強い推量。肯定の can は「～することがある」で、目の前の1回の推量には使わない。
(2)	must	根拠がはっきりしているので言い切る。推量の強さは must > may / might—「重そう」と見えているのに may not では弱すぎる。
(3)	should	助言の should。may（～してもよい）は勧める場面に合わない。
(4)	may	確かではない＝弱い推量（might も可）。must は言い切りで合わない。

つまずき① 助動詞のうしろを原形にしない

助動詞のうしろは**いつでも原形**です。主語が he / she でも s は付かず、to も入りません。「助動詞を書いたら、次の語はそのままの形」と声に出して確かめる習慣をつけてください。

× She must goes to the office every Monday. → ○ She must go to the office every Monday.

must のうしろは原形 go。三単現の s は付けない。

つまずき③ 「～のはずがない」を mustn't で書く

must の否定は**意味で2つに割れます**。「してはいけない」は mustn't、「～のはずがない」は can't。日本語では同じ「～ない」でも、英語では別の語になります。

× He mustn't be the person who called me. → ○ He can't be the person who called me.

推量の打ち消しは can't。mustn't だと「その人であってはならない」という禁止になる。

つまずき④ don't have to と must not を同じだと思う

don't have to = しなくてよい（自由）／must not = してはいけない（禁止）。正反対です。あわせて、must には**過去形がありません**—過去の義務は had to で表します。

× It's a holiday, so you must not come to school. → ○ It's a holiday, so you don't have to come to school.

休みで「来なくてよい」のだから禁止ではない。must not は立入禁止の看板の側の語。

授業のひとつ 導入はヘルメットと試合の2文だけで十分です。そのあと1分、**教室の中の must さがし**をさせてください—掲示物・時間割・部活の決まりから見つけた must を「義務？ 推量？」で仕分けるだけで、2つの顔が体で入ります。

